

経済・金融 フラッシュ

2月マネー動向： 銀行貸出は3カ月連続の前年比マイナス

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志

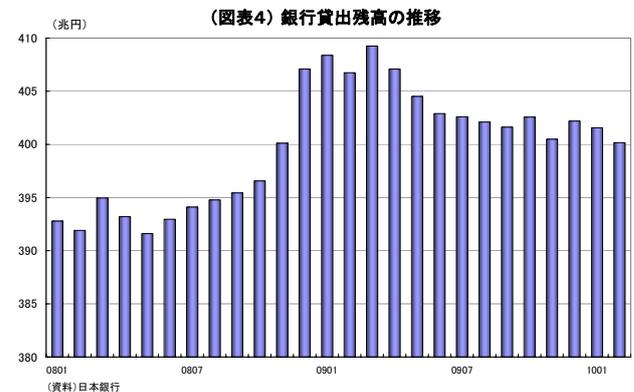
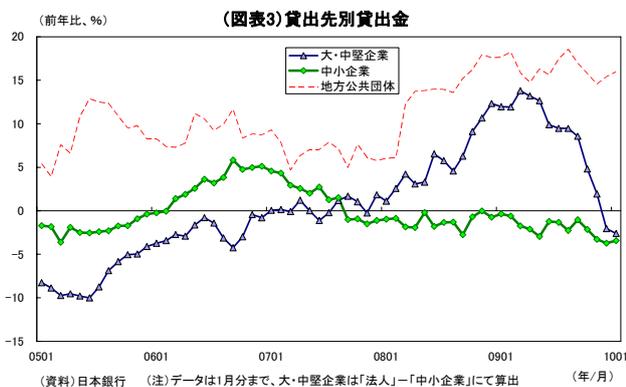
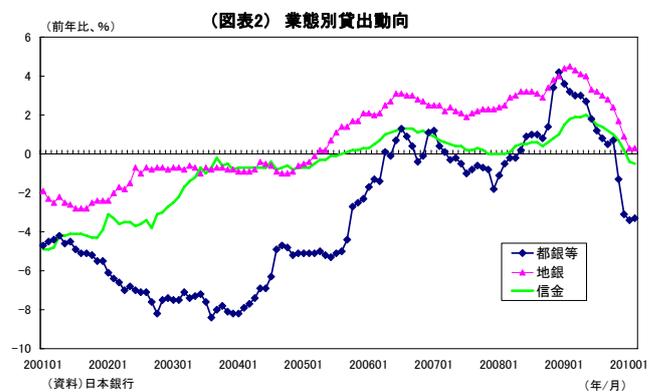
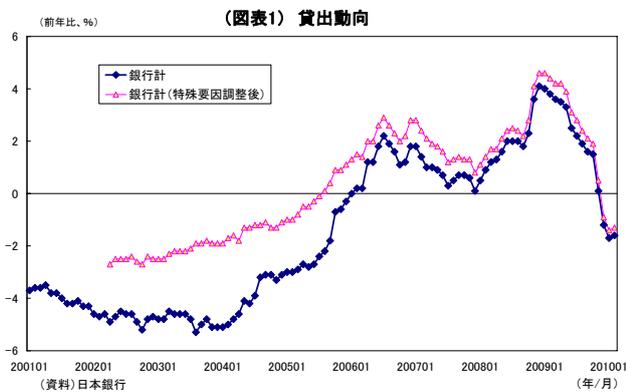
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

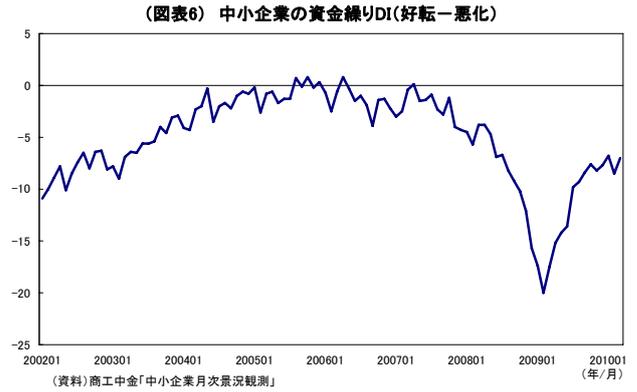
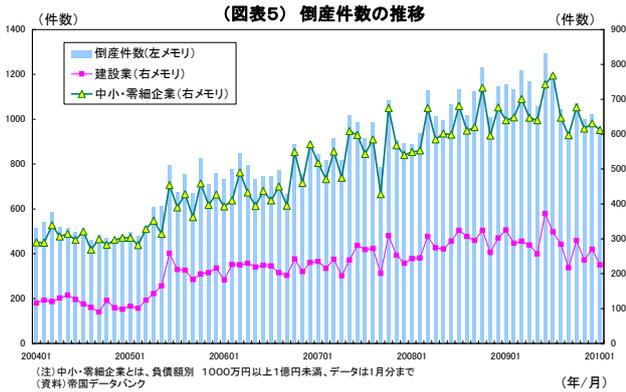
1. 貸出動向：貸出低迷が続く

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、2月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲1.6%と4年ぶりの前年割れとなった09年12月以降3カ月連続のマイナスとなった。

都銀等では同▲3.3%(前月は▲3.4%)と大幅なマイナスとなった。比較対象である09年2月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出の急増が生じていた時期にあたり、その反動が出ているというテクニカルな面もあるが、企業の設備・運転資金の需要低迷により、銀行貸出残高自体が弱めに推移しているという要素も否めない(図表1~6)。

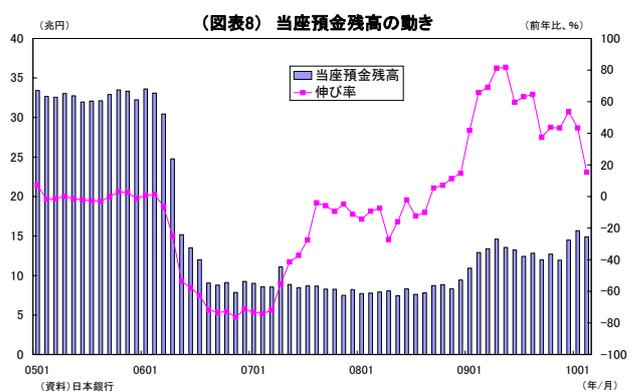
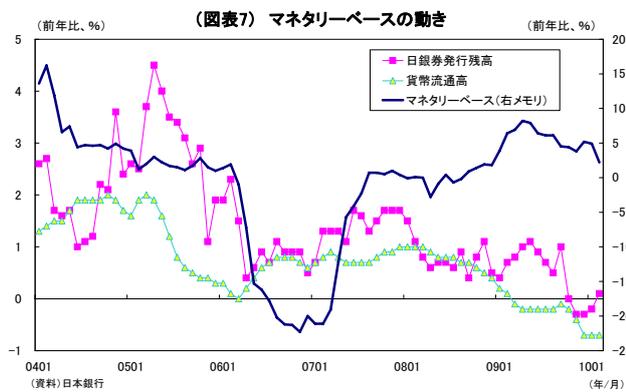
特に中小企業向け貸出は前年比▲3%台で推移している。12月初旬に「中小企業金融円滑化法」が施行されたが、資金繰りにも依然として厳しさが見られる。





2. マネタリーベース：緩和姿勢を背景に潤沢な資金供給が続く

日銀による資金供給量を示す2月のマネタリーベースは、前年同月比2.2%増と18ヶ月連続の前年比プラスとなった。前月の同4.9%増と比べると伸び率が低下したが、前年の2月にマネタリーベース残高が急増したという技術的な要因が大きい。2月前半には日銀において一部資金供給を絞り込む動きが見られたが(市場機能の維持を目的とした対応とみられる)、日銀の積極緩和姿勢に変わりはなく、当面維持されるとみられることから、マネタリーベース残高は今後も高水準で推移するだろう(図表7,8)。

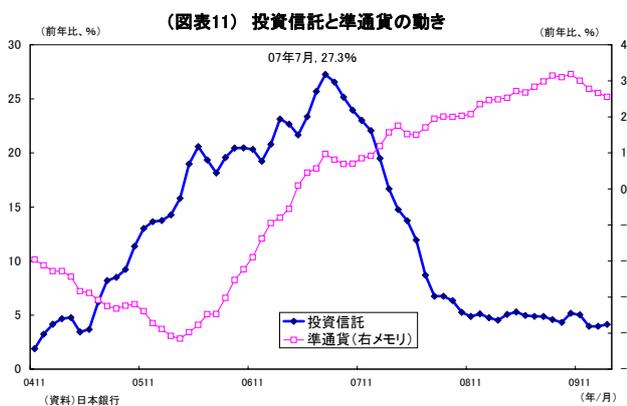
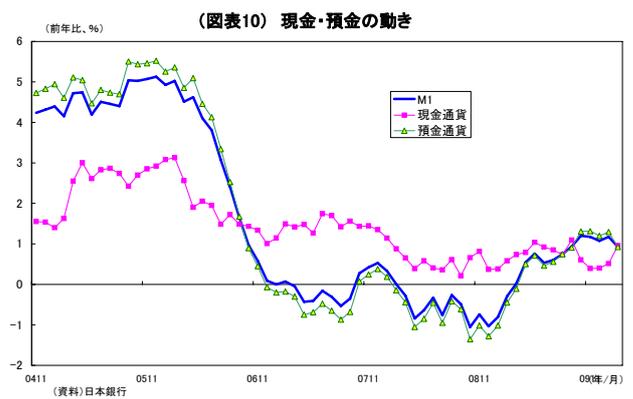
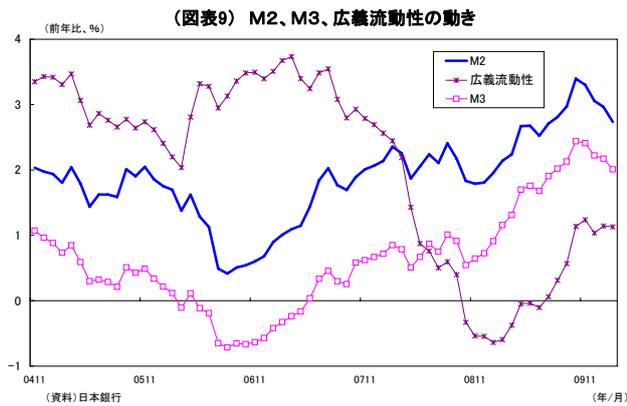


3. マネーストック：通貨供給量の伸びは引き続き高水準

通貨供給量の代表的指標である2月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.7%増（前月改定値は3.0%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.0%増（前月改定値は2.2%増）と、それぞれ前月と比べやや低下したが、依然高水準の伸びが続いている。

M3に投信や外債などを含めた広義流動性は前年比1.1%増（前月改定値は1.1%増）となり、広義流動性の伸びがM3の伸びを下回る状況が続いている（図表9～10）。

投資信託などリスク資産の伸びが盛り上がり欠ける中、定期預金など準通貨の高い伸びが続いており、安全性重視のマネーの流れは根強い（図表11）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。